

Y's Letter vol.2 No.16

www.yoshida-pharm.com/

病院感染に関する情報通信

吉田製薬株式会社 〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10
Tel: 03-3381-7291 Fax: 03-3381-7244
Mail: info@yoshida-pharm.co.jp

尿路留置カテーテル管理における消毒について

Published online: 2006.09.15

はじめに

尿路留置カテーテルは、尿路閉塞、術直後の排尿困難時、重症患者の全身管理などを目的に日常的に行われる医療処置のひとつです。しかし一方で、カテーテル留置による尿路感染症は、病院感染において頻度の高い感染症であることが指摘されており、病院感染対策上で重要な項目のひとつとなっています。以下、尿路カテーテル挿入時と留置中の管理について述べます。

尿路カテーテルの挿入時の消毒について

尿路カテーテル挿入時は、カテーテルにより尿道口周囲の菌を押し込む可能性があるため、尿路カテーテル感染の予防にはまず挿入時の無菌的操作が重要となります。日本においては、無菌的操作におけるカテーテル挿入前の消毒において、外陰・外性器の皮膚消毒の適用のある0.02%グルコン酸クロルヘキシジンや、粘膜への適用がある0.02~0.05%塩化ベンザルコニウム、10%ポビドンヨードなどが使用されています。尿道口周囲の消毒を行う際は、付着している有機物などで消毒効果が低下しないように、消毒前に尿道口周囲を洗浄することが大切です。また、石けんを用いた洗浄を行った場合は、石けん分が残留していると特に塩化ベンザルコニウムは殺菌効果が減弱するため、石けん分を十分洗い流すことが重要です。¹⁾

CDCガイドラインにおいては、挿入時には尿道周囲の洗浄のための適当な消毒薬の使用が推奨されています²⁾。しかし、英国のガイドラインにおいては、清潔でない場合は石けんと流水で洗うことを推奨しており³⁾、外陰部を清潔に保つことができればカテーテル挿入時の

外尿道口の消毒は不要であるとされています⁴⁾⁵⁾。尿路カテーテル挿入前の洗浄において、水を用いた洗浄と消毒薬を用いた洗浄では、感染率に差は無かったとの報告もあります⁶⁾。

留置中のケアについて

カテーテル留置中の日常的な陰部ケアについては、CDCガイドラインでは石けんと微温湯による洗浄のみを推奨しています²⁾。また、英国のガイドラインにおいてもシャワーまたは強くないビデの使用を推奨しており³⁾、消毒薬の使用は勧めていません⁵⁾。その根拠としては、尿道口周囲の処置について、ポビドンヨードまたは石けんと水による処置群と非処置群とを比較した調査において、両群間における細菌尿の発生率に有意な差はないとの報告⁷⁾などによります。また抗菌薬入り軟膏などの尿道口への塗布も感染防止の効果はないと考えられています⁴⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。

しかし、これらの根拠とされている調査の多くは、尿路カテーテル留置期間が比較的短期間(11日間など)の調査結果に基づいており、長期間留置した場合などについての検討はおこなっていません。長期留置における尿路カテーテル挿入中のケアに関する尿道口の洗浄や消毒、その実施頻度などについては、まだ明確な報告があまりないのが現状です。

尿路カテーテル留置中の尿道口ケアへの消毒薬の使用について

ガイドラインなどでは日常的な尿道口ケアにおける消毒薬の使用は推奨されていませんが、尿道口ケアにおける消毒薬使用の有効性についての調査がいくつか報告されています。

<参考文献>

- 1) 小林寛伊 編集:改訂 消毒と滅菌のガイドライン . へるす出版 . 2004[[記事紹介](#)]
- 2) CDC : Guideline for Prevention of Catheter-associated Urinary Tract Infections . 1981 . at http://www.cdc.gov/ncidod/dhqp/gl_catheter_assoc.html
- 3) 吉田俊介訳、小林寛伊監訳:PHLS の“病院感染防止:臨床ガイドライン”の紹介 . 感染症 . 1999; 29 (5):195-200 .
- 4) 小林寛伊、吉倉 廣、荒川宜親ほか編集:エビデンスに基づいた感染制御 第2集-実践編 . 東京 . メヂカルフレンド社 . 2003 .
- 5) Pratt RJ, Pellowe C, Loveday HP, et al. : Guideline for preventing infections associated with the insertion and maintenance of short-term indwelling urethral catheters in acute care. J Hosp Infect. 2001; 47(Suppl) : S39 - S46 . [[Full Text](#)]
- 6) Webster J, Hood RH, Burrige CA, et al. : Water or antiseptic for periurethral cleaning before urinary catheterization: a randomized controlled trial. Am J Infect Control. 2001; 29(6) : 389-394 . [[PubMed](#)]
- 7) Burke JP, Garibaldi RA, Britt MR, et al. : Prevention of catheter-associated urinary tract infections. Efficacy of daily meatal care regimens . Am J Med . 1981; 70(3) : 655-658 . [[PubMed](#)]
- 8) Burke JP, Jacobson JA, Garibaldi RA et al. : Evaluation of daily meatal care with poly-antibiotic ointment in prevention of urinary catheter-associated bacteriuria. J Urol 1983; 129(2) : 331-334. [[PubMed](#)]
- 9) Huth TS, Burke JP, Larsen RA, et al. : Randomized trial of meatal care with silver sulfadiazine cream for the prevention of catheter-associated bacteriuria. J Infect Dis 1992; 165(1) : 14-18. [[PubMed](#)]
- 10) Classen DC, Larsen RA, Burke JP, et al. : Daily meatal care for prevention of catheter-associated bacteriuria: results using frequent applications of polyantibiotic cream. Infect Control Hosp Epidemiol 1991; 12(3) : 157-162. [[PubMed](#)]
- 11) Matsumoto T, Sakumoto M, Takahashi K et al. : Prevention of Catheter-Associated Urinary Tract Infection by Meatal Disinfection . Dermatology 1997 : 195 (suppl 2) : 73-77 . [[PubMed](#)]
- 12) 木下佳子、宮 聖美、丸山博美 他:ICU における尿路カテーテル由来の尿路感染対策 外尿道口洗浄・消毒の有効性の検討 . 看護技術 . 2002; 48 (7) : 72-74 .
- 13) 井口ゆき枝、大庭富美子、鈴木知美 他:尿路カテーテル留置中の患者の感染予防 尿路感染防止に効果的な陰部ケアの検討 . 全自病協雑誌 . 1999; 10 : 48-50 .
- 14) 保積真樹子、増田由美子、門田ひろ子 他:尿路感染を防ぐための尿道留置カテーテル挿入部のイソジン消毒と石鹸洗浄の比較 . 日本看護学会集録 成人看護 . 2004; A-28 : 123-125 .
- 15) 井上都之、田村正枝、宮沢広恵 他:膀胱留置カテーテル装着患者の尿路感染成立と影響する因子についての検討 . 看護研究 . 1999; 32(4) : 45-53 .
- 16) Garner JS, Jarvis WR, Emori TG, et al. : CDC Definitions of Nosocomial Infections . In Olmsted RN, ed . : APIC Infection Control and Applied Epidemiology: Principles and Practice . St. Louis : Mosby; 1996 : pp . A-1 - A-20. [[Full Text](#)]